

和光市 食育推進計画作りに関するアンケート調査

単純集計 集計結果

1 - 1 調査概要

1) 調査の目的

食育推進計画策定にあたり、和光市市民の食生活や食育に関する現状やニーズを把握し、施策等の検討に活用するとともに、施策の目的達成度を測るための成果指標として活用できる基礎資料を得ることを目的としています。

2) 調査項目

調査内容	設問項目
1.食に関する意識の把握	・食育の周知度 ・食育への関心 ・食に関する事項の認知（食事バランスガイド他）
2.食生活の悩みと改善意向の把握	・現在の食生活の評価と今後の改善意向 ・食生活での悩みや不安
3.食の知識と実践の現状の把握	・食習慣等について ・食事のマナー、習慣等の実践について ・今後の食生活で取り組みたいこと
4.地産地消の知識と実践の現状の把握	・地産地消への関心 ・地産地消の実践に必要なこと
5.ボランティア等への参加意向の把握	・参加状況・参加したい活動内容 ・参加促進に必要なこと
6.食に関して求める情報・各主体の取組に期待することの把握	・豊かな食生活のために知りたい情報 ・飲食店等に対して期待する取組 ・行政に期待する取組
7.回答者の属性	・性別/年齢/在住年数/居住地区/職業/家族構成

3) 調査対象と調査方法

対象	調査対象者数	抽出方法	配付・回収方法
市民	1,500名	住民基本台帳より 無作為抽出	メール便による配布 郵送回収 (無記名)

4) 調査期間

配布：平成21年9月10日（木）

締切：平成21年9月25日（金）

5) 回収状況

配布数	回収数	回収率	回収数 配布数
1,500通	539通	35.9%	

1 - 2 単純集計結果のポイント

調査内容	ポイント
1. 食に関する意識の把握	<p>問 1~2 「食育」という言葉やその意味について、5割以上が「言葉も意味も知っていた」、3割が「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」と回答している。また約8割の回答者が「関心ある」、「どちらかと言えば関心がある」と回答している。</p> <p>問 3~4 「食事バランスガイド」の周知について、約5割が「見たことがある」と回答する一方、約4割が「見たことはない」と回答している。 その一方で、約65%の回答者が食生活の中に食事バランスガイドを「参考にしてている」または「今後、参考にしてみたい」と回答している。</p> <p>問 5 「日本型食生活」、「食の安全に関する知識」、「内臓脂肪症候」について、約8割が「よく理解している」、「ある程度理解している」と回答しており、関心が高い。</p>
2. 食生活の悩みと改善意向の把握	<p>問 5~7 現在の食生活について、「よい食生活を送っている」と回答しているのは約6割、残り約4割は「よい食生活を送っていない」と回答している。 現在の食生活の中で、回答者は特に「食品の安全性」、「自分・家族の健康」についての悩みや不安を抱えている。その他にも、「家計や消費」、「将来の食糧供給」について高い関心を抱いている。</p>
3. 食の知識と実践の現状の把握	<p>問 8 普段の食生活の中で意識的に取組まれているものとして、回答者約6割がほぼ毎日「家族や友人と一緒に食事をする」、「主食・副菜・主菜をそろえて食べる」、7割が「朝昼夕と規則正しく食事をする」、「家庭で食事を作って食べる」、8割が「朝食を食べる」ようにしている。 約4割が毎日の心がけとして「寝る前はものを食べない」ようにしている一方で、ほとんど行っていない回答者が1割以上存在する。 「野菜を十分にとる」ことについては、「毎日欠かさず」意識的に行っている回答者は25%程度にとどまる。しかし、回答者の75%以上が、「週の半分以上」意識的に行っていると回答している。 一方、「意識的に運動している」回答者は少なく、「週に1,2回」、または「ほとんど行っていない」と回答した割合が全体の55%以上を占める。</p> <p>問 9 朝食を毎日食べない理由として、半数以上が「食べる時間がない」、4割が「食欲がない」ことを挙げている。</p> <p>問 10 食事の際に実行しているマナーや習慣として、「いただきますなどの挨拶をする」、「はしやスプーンなどを正しく使う」、「食事を残さず食べる」こと</p>

調査内容	ポイント
3.日頃の食生活について	<p>を回答したのは、全体の 7 割を超えており、回答者の中で一般的な習慣として身につけていることが伺える。また「好き嫌いなく食べる」ことは 6 割を超えており、意識付けられているものと推測できる。その一方で、「間食をとらないようにしている」「生産から消費までの流れを理解している」は 3 割に満たない。</p> <p>問 11</p> <p>食生活の中で今後取組みたいものとして、「野菜を十分にとる」(72%)、「よく噛んで食べる」(66%)、「腹八分目を心がける」(64%)の関心が高い。一方、「料理を正しく並べる」(37%)、「生産から消費までの流れを理化している」(34%)について関心が低い。</p>
4.地産地消の知識と実践の現状の把握	<p>問 12～14</p> <p>地産地消について、3 割が「既に生活の中に取り入れている」と回答している一方、4 割が「知っているが、実践していない」と回答している。</p> <p>市内で生産された農産物の購入について、「同じくらいの価格であれば購入したい」が約 75%と突出している。</p> <p>市内で生産された農産物を回答者の方が積極的に購入するためにも、「スーパー等に和光市産のコーナーを設置する」(70%)、「農産物に和光市産のマークをつける」(46%)、「農家の生産物を共同で販売する直売所を増やす」(39%)ことが望まれている。</p>
5.ボランティア等への参加意向の把握	<p>問 15～17</p> <p>食育に関する活動を行った経験のある回答者は全体の 5%と低く、25%が「今後活動したい」と望んでいる。その一方で、6 割以上の回答者が「活動をしたくないと思わない」と回答している。</p> <p>今後行いたい活動内容として、「郷土料理、伝統料理等の食文化継承」、「食生活の改善」、「生活習慣予防病などのための料理教室」への回答が多い。</p> <p>回答者の 7 割以上が、活動に参加するためのきっかけとして「何を、いつ、どこでやっているのかわかる情報が欲しい」と要望し、この値は突出している。</p>
6.食に関して求める情報・各主体の取組に期待することの把握	<p>問 18～20</p> <p>健全で豊かな食生活を送るために、回答者の 6 割が「食の安全、食品表示」、4 割が「自分に合った栄養バランスやカロリー等の情報」や「健康に配慮した料理の技術と知識」に関する情報を欲している。</p> <p>回答者は、食生活の改善や食育の推進のために、事業者に対して「食品添加物の少ない食材の使用」(63%)、「栄養バランスのとれたメニュー」(57%)、市政に対して「地産地消の推進」(55%)、「食の安全に関する情報提供」(39%)を要望している。</p>

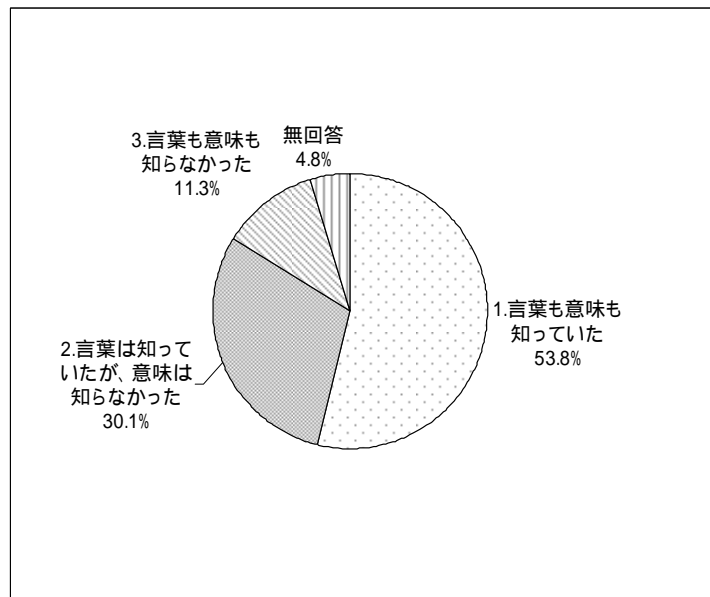
1 - 3 単純集計結果

図表中の「N」は、回答者数を表します

1. 食に関する意識

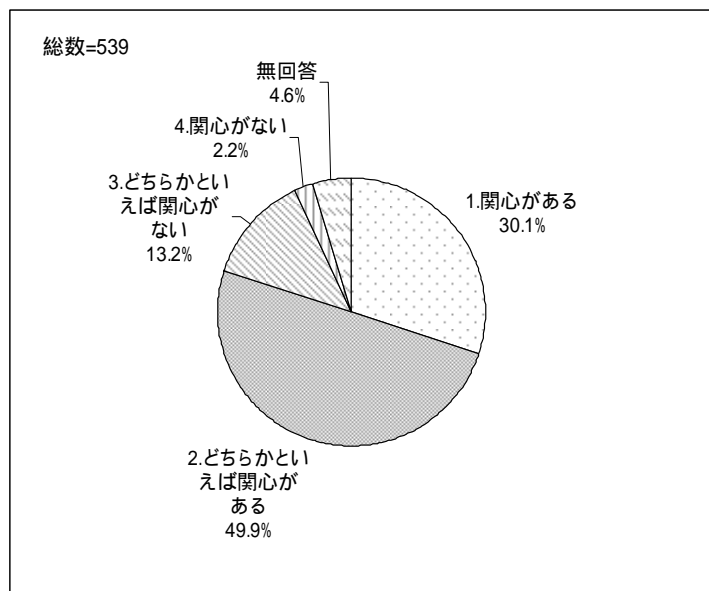
問1. あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。(は1つ)

「食育」という言葉の認知は、「言葉も意味も知っていた」(53.8%)が最も多く、次いで「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」(30.1%)となっています。
一方、「言葉も意味も知らなかった」(11.3%)という回答は、1割となっています。



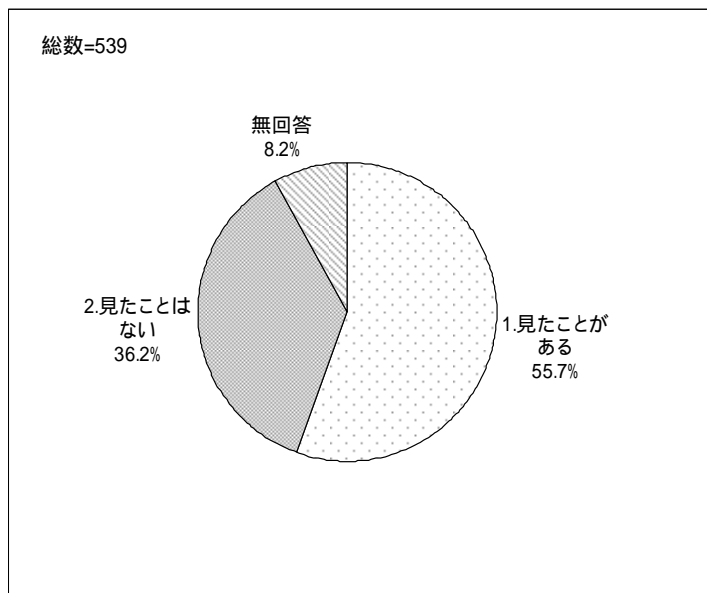
問2. あなたは、「食育」について、どの程度関心がありますか。(は1つ)

食育への関心は、「どちらかといえば関心がある」(49.9%)が最も多く、次いで「関心がある」(30.1%)となっています。「どちらかといえば関心がない」(13.2%)・「関心がない」(2.2%)は、あわせて約15%にとどまっています。



問3. あなたは、コマ型の「食事バランスガイド」(別紙)を見たことがありますか。
(は1つ)

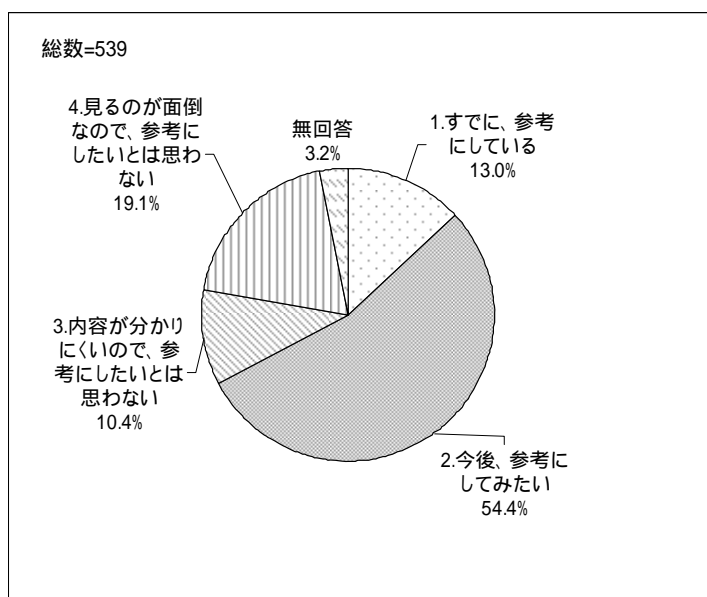
「食事バランスガイド」の認知は、「見たことがある」(55.7%)が、「見たことはない」(36.2%)という回答と比べて多く、全体の半数以上を占めています。



問4. あなたは、「食事バランスガイド」を参考にしてメニューを考えたり、選んだりしたいと思いますか。(は1つ)

「食事バランスガイド」については、「今後、参考に使いたい」(54.4%)が最も多くなっています。

一方、「見るのが面倒なので、参考にしたいとは思わない」(19.1%)、「内容が分かりにくいので、参考にしたいとは思わない」(10.4%)は、あわせて約3割となっています。

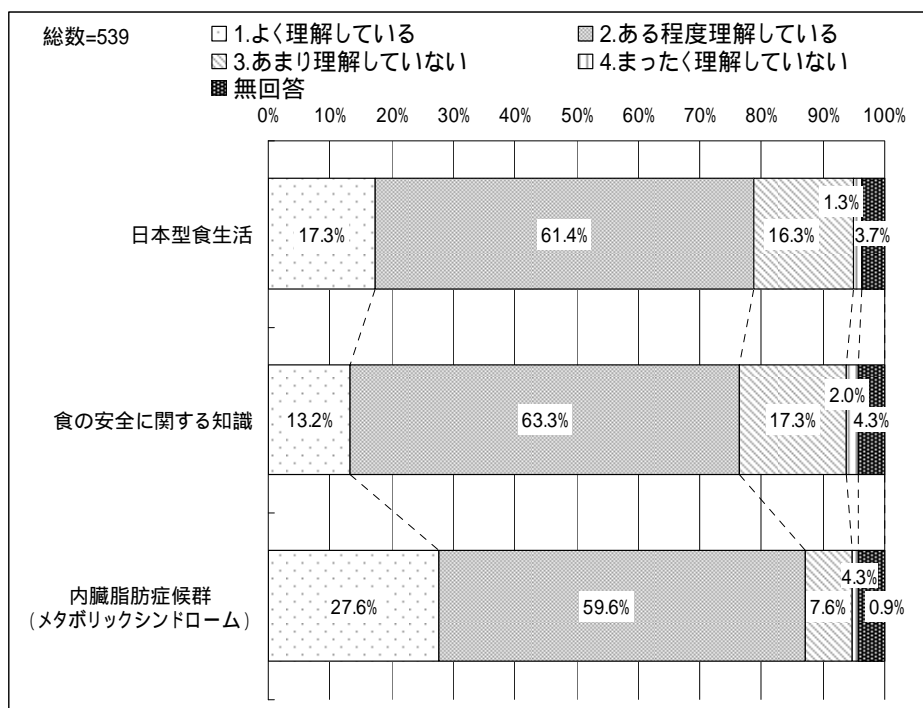


問5. あなたは、以下のような「食育」に関する事項について、その内容を知っていますか。(は1つずつ)

食育に関する事項の認知度は、「日本型食生活」・「食の安全に関する知識」・「内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)」の全ての事項について、「よく理解している」、または「ある程度理解している」という回答があわせて約75%以上となっています。

特に、「内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)」については、「よく理解している」(27.6%)と「ある程度理解している」(59.6%)とあわせて約9割となり、他の事項に比べて認知が高い結果となっています。

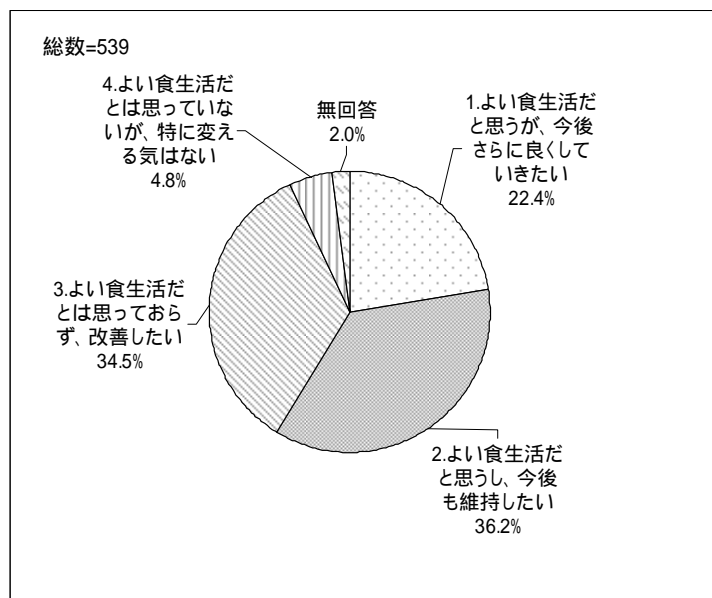
一方、「食の安全に関する知識」については、「あまり理解していない」(17.3%)と「まったく理解していない」(2.0%)とあわせて約2割となり、他の事項に比べて認知が低い結果となっています。



2. 食生活の悩みと改善意向

問6. あなたは、よい食生活を送れていると思いますか。また、今後はどのようにしたいと思いますか。(は1つ)

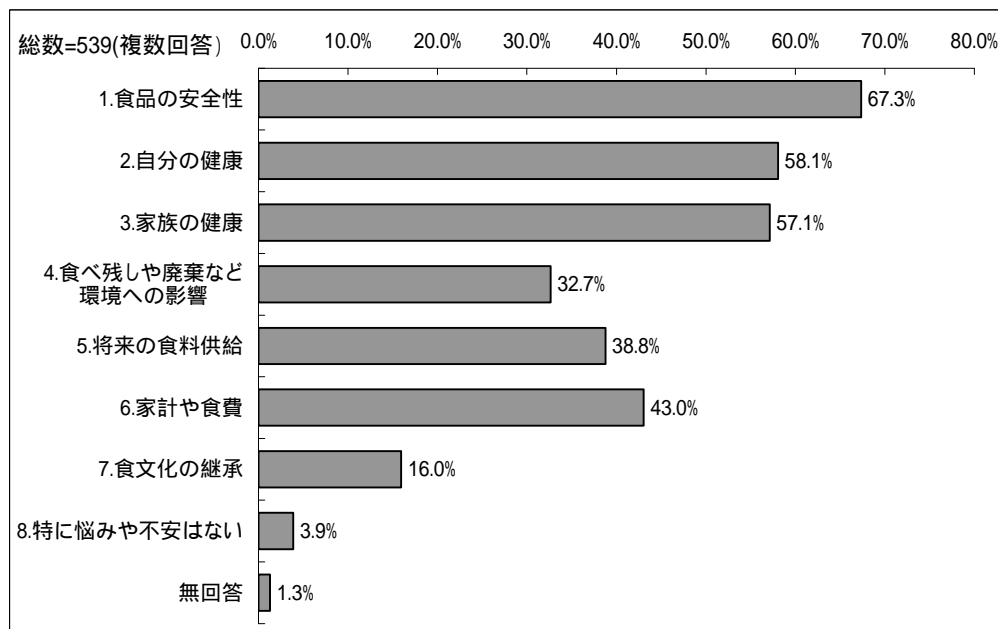
食生活については、「よい食生活だと思し、今後も維持したい」(36.2%)が最も多く、または「よい食生活だと思すが、今後さらに良くしていきたい」(22.4%)と、現在の食生活を評価し、さらに維持または改善していきたいという意向が約6割となっています。



問7. 日頃の食生活のどのようなことに悩みや不安を感じますか。(はいくつでも)

日頃の食生活における悩みや不安は、「食品の安全性」(67.3%)が最も多く、次いで「自分の健康」(58.1%)、「家族の健康」(57.1%)となっています。

一方、「食文化の継承」(16.0%)や「食べ残しや廃棄など環境への影響」(32.7%)については、回答が少なくなっています。

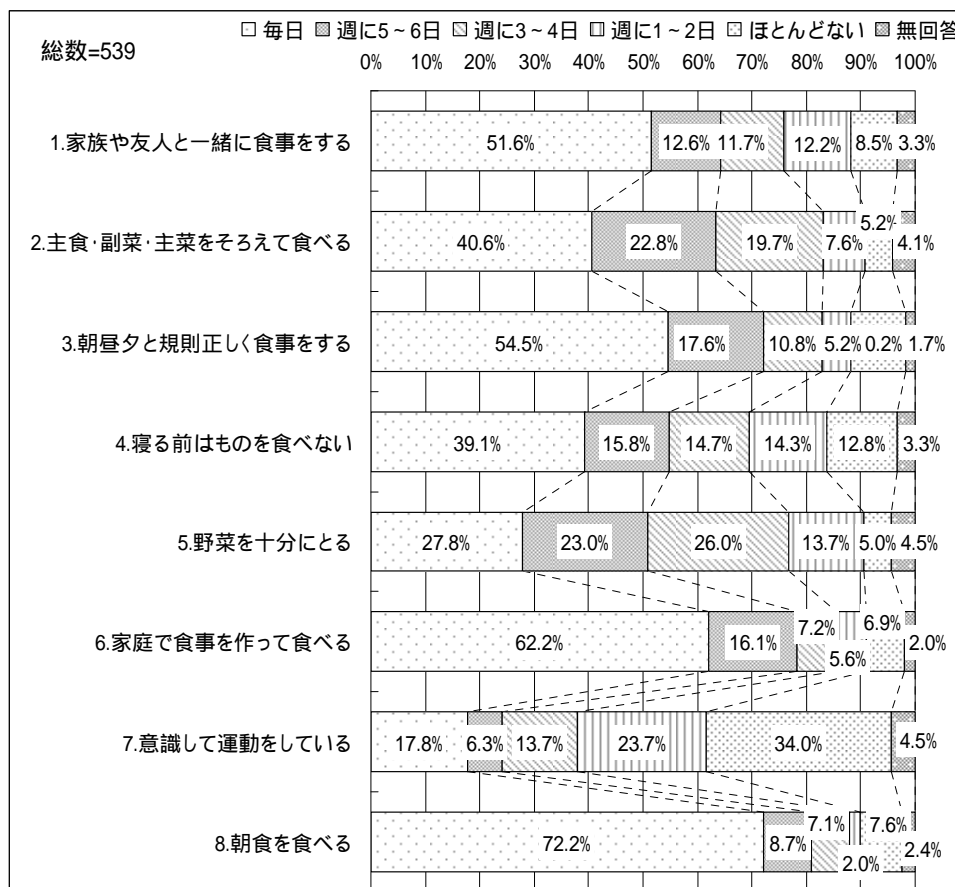


3. 食の知識と実践の現状

問8. 普段の生活の中で、現在どれくらい行っているか、お答えください。(は1つずつ)

普段の生活における食習慣等は、「毎日」・「週に5~6日」を合わせた回答割合が多かった項目は、「朝食を食べる」(「毎日」72.2%・「週に5~6日」8.7%)、「家庭で食事を作って食べる」(「毎日」62.2%・「週に5~6日」16.1%)、「朝昼夕と規則正しく食事をする」(「毎日」54.5%・「週に5~6日」17.6%)となっています。

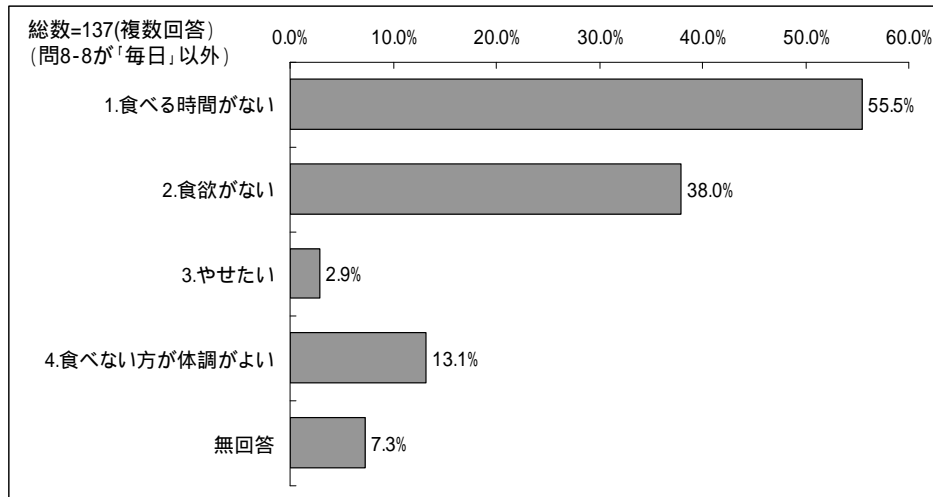
一方、「週1~2回」・「ほとんどない」を合わせた回答割合が多かった項目は、「意識して運動をしている」(「週1~2回」23.7%・「ほとんどない」34.0%)、「寝る前はものを食べない」(「週1~2回」14.3%・「ほとんどない」12.8%)となっています。



問9. 問8の8で「毎日」以外を選んだ方におたずねします。食べない日がある理由は何ですか。(はいくつでも)

食べない日がある理由は、「食べる時間がない」(55.5%)という回答が最も多く、次いで「食欲がない」(38.0%)となっています。

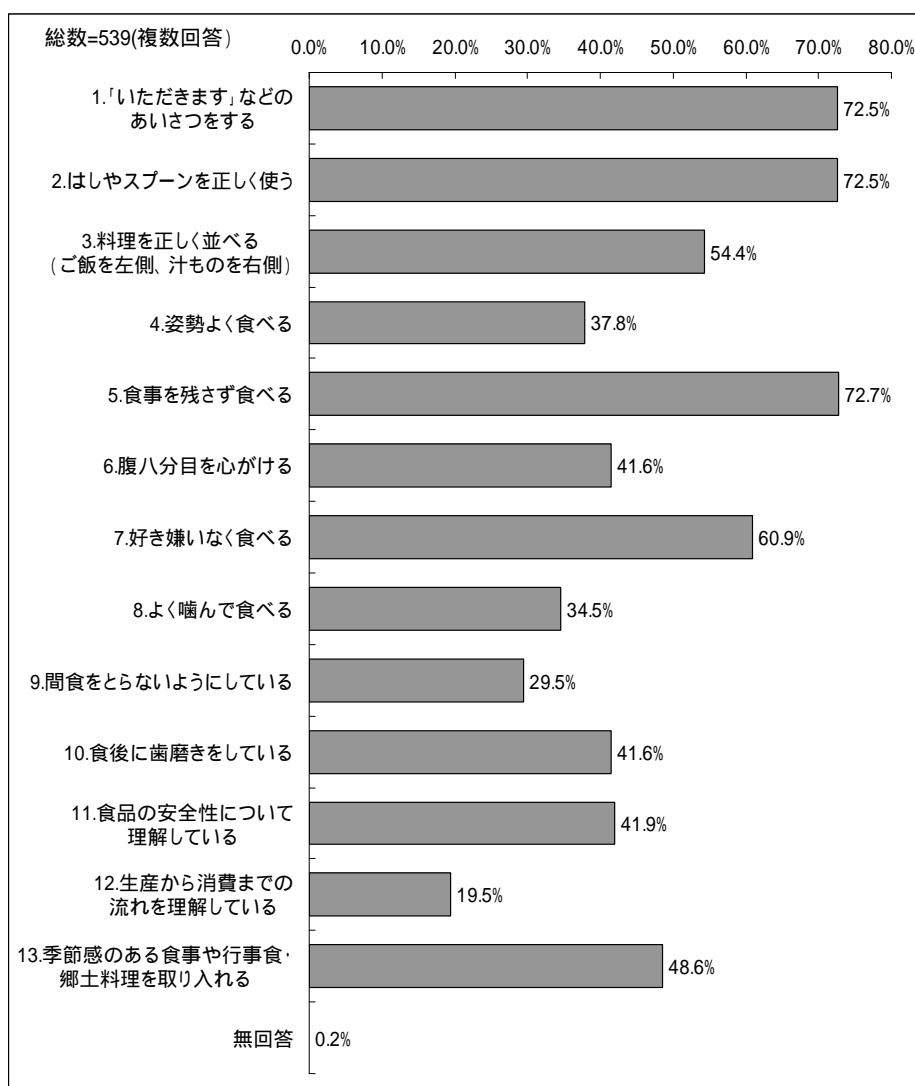
一方、「やせたい」(2.9%)という回答は、約3%にとどまっています。



問 10 . 食事の際のマナーや習慣等について、現在行っている（できている）ことを選びください。（はいいくつでも）

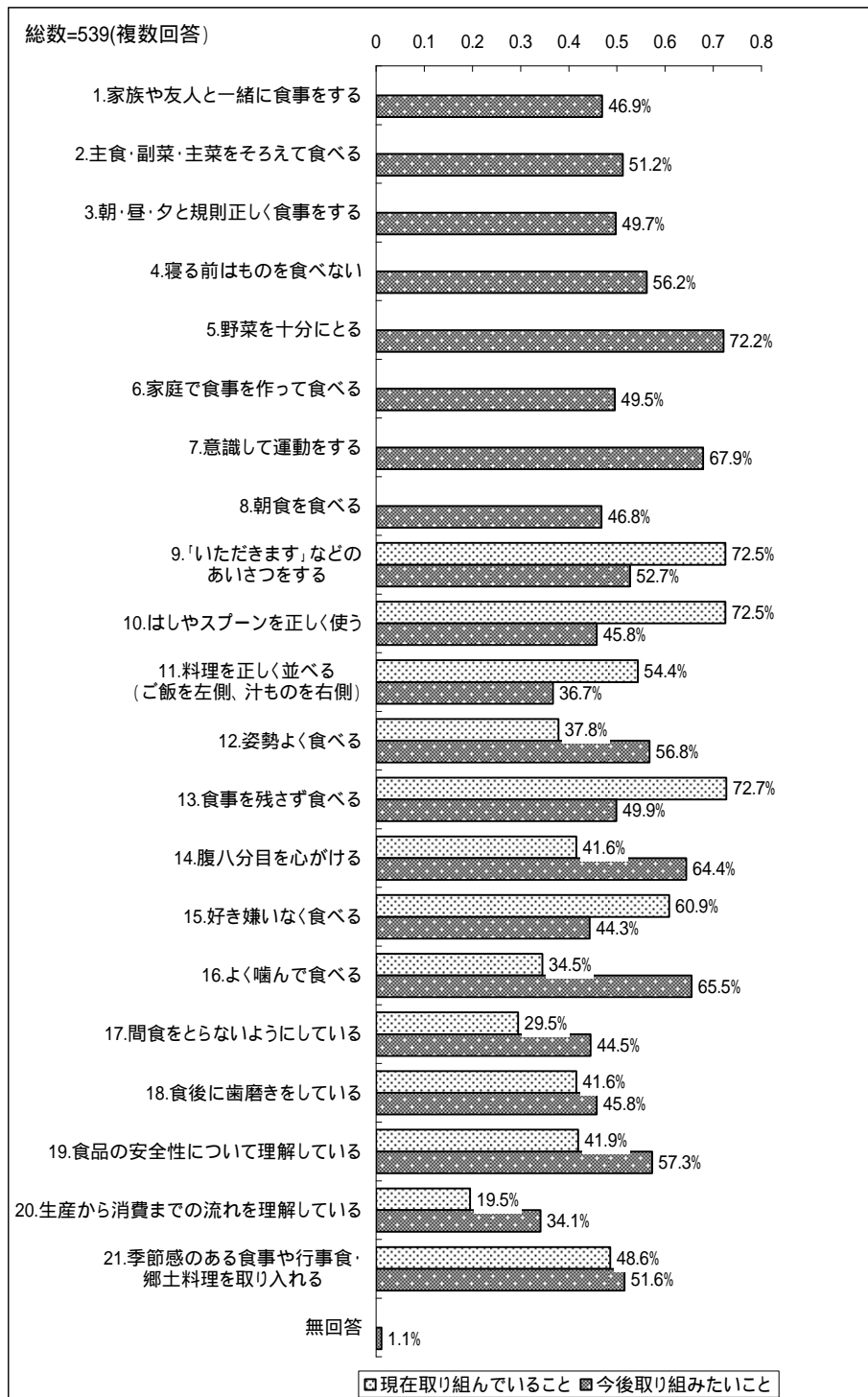
現在の食事の際のマナーや習慣等は、「食事を残さず食べる」(72.7%)、「『いただきます』などのあいさつをする」(72.5%)、「はしやスプーンを正しく使う」(72.5%)などが多くなっています。

一方、「生産から消費までの流れを理解している」(19.5%)、「間食をとらないようにしている」(29.5%)、「よく噛んで食べる」(34.5%)などは回答が少なくなっています。



問 11 .(問 8 や問 10 では現在の状況をお伺いしましたが)今後、取り組みたいと思うことをお選びください。すでに行っていることでも、まだ行っていないことでも構いません。(はいいくつでも)

今後、取り組みたいと思うことは、「野菜を十分にとる」(72.2%)、「意識して運動をする」(67.9%)(問 8 で現在の生活においてほとんどできていない傾向が見られた項目)「よく噛んで食べる」(65.5%)(問 10 で現在の食事の際のマナーや習慣等になっているという回答が少なかった項目)などが多くなっています。

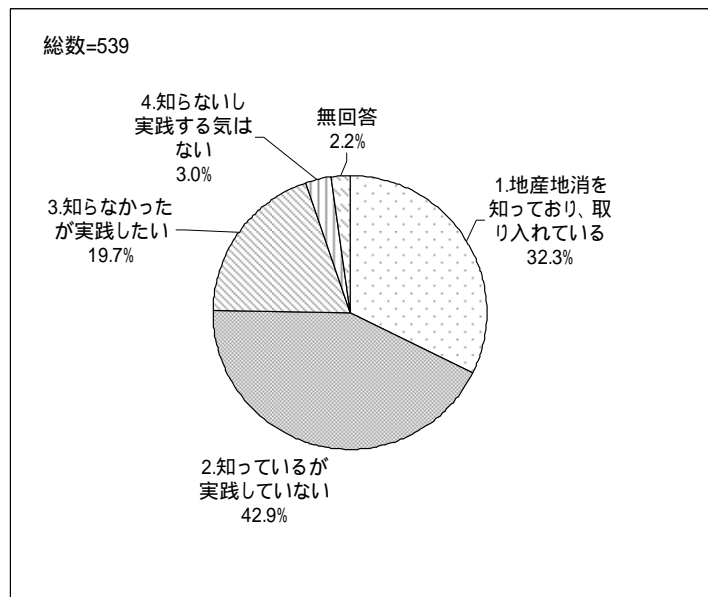


4. 地産地消の知識と実践の現状

問 12. あなたは、「地産地消」という言葉やその意味を知っていましたか。また、実践していますか。(は1つ)

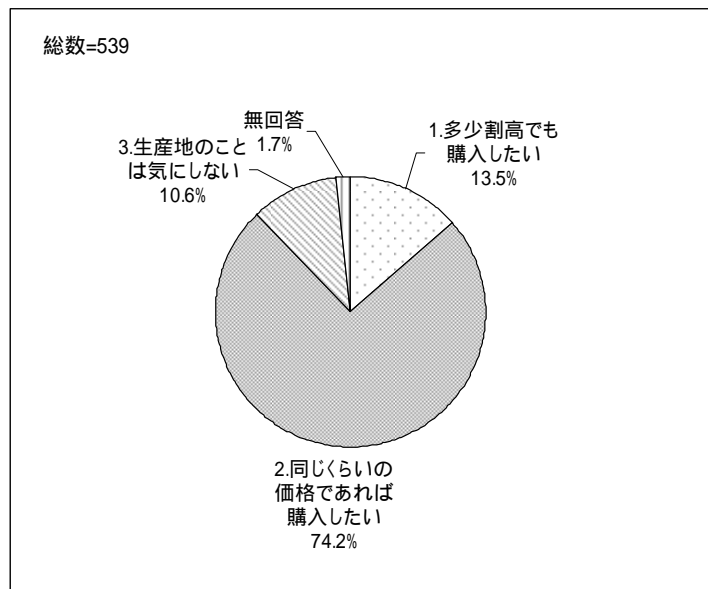
地産地消については「知っているが実践していない」(42.9%)という回答が最も多くなっています。

一方で、「地産地消を知っており、取り入れている」(32.3%)、「知らなかったが実践したい」(19.7%)となっており、現在実践している、または今後実践したいという回答をあわせて約5割となっています。



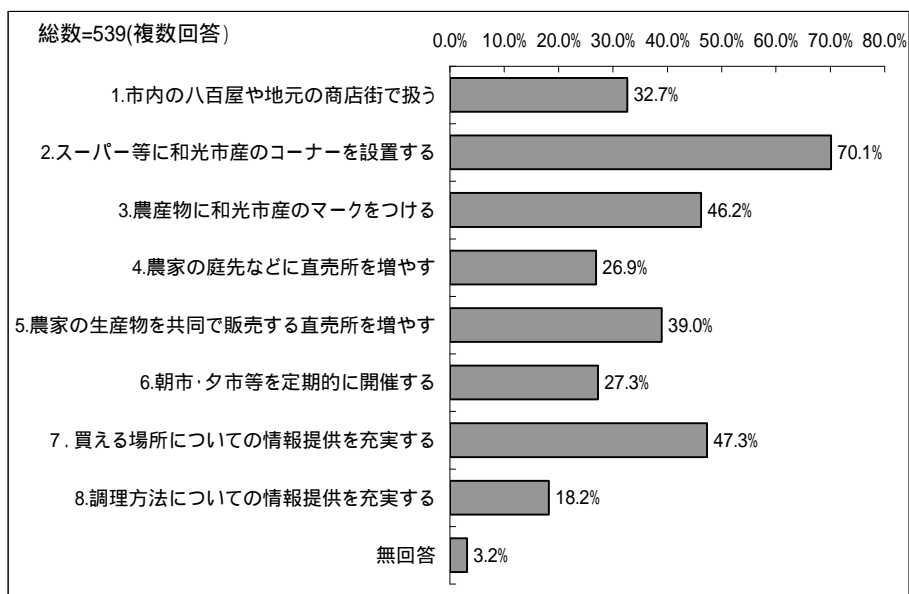
問 13. 和光市内でつくられた農産物を購入したいと思いますか。(は1つ)

和光市内でつくられた農産物の購入については「同じくらいの価格であれば購入したい」(74.2%)、「多少割高でも購入したい」(13.5%)となっており、多少割高または同価格であれば購入したいという回答が、あわせて約9割となっています。



問 14 .和光市内でつくられた農産物を手に入れやすくするために何が必要だと思えますか。(はいくつでも)

和光市内でつくられた農産物を手に入れやすくするために必要なことは、「スーパー等に和光市産のコーナーを設置する」(70.1%)が最も多く、次いで「買える場所についての情報提供を充実する」(47.3%)、「農産物に和光市産のマークをつける」(46.2%)となっています。

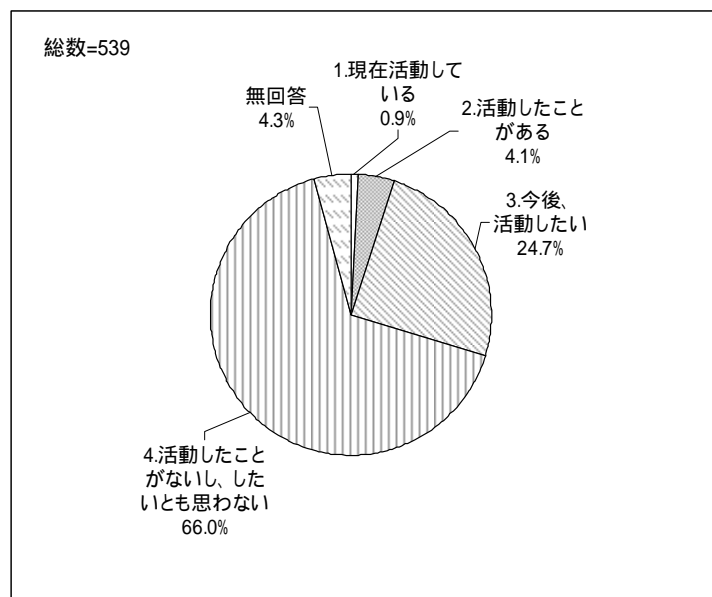


5. ボランティア等への参加意向

問 15. 今までにボランティアなど自主的な活動として、「食育に関する活動」()をしたことがありますか。()は1つ)

食育に関する活動経験は、「活動したことがないし、したいとも思わない」(66.0%)が最も高く、次いで「今後、活動したい」(24.7%)となっています。

一方で、過去あるいは現在活動したことがある、または今後活動したいという回答は、「活動したことがある」(4.1%)及び「現在活動している」(0.9%)をあわせて約 5%となっています。

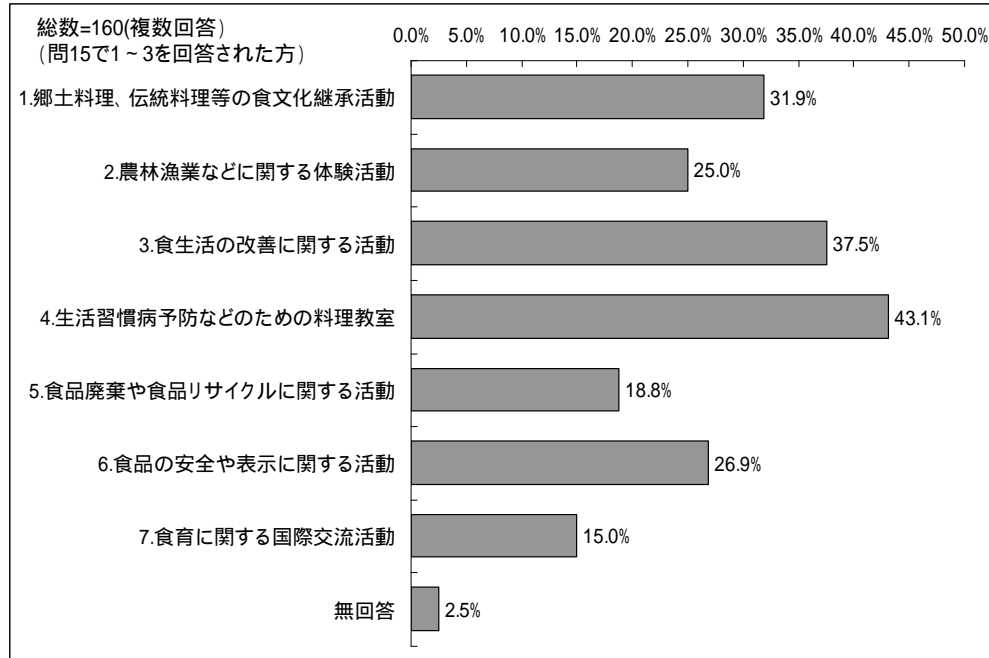


この調査における「食育に関する活動」とは、以下のような内容を指します。

- ・公民館や学校、地域のサークル活動等において、食べ物や食事、食文化等に関わる様々な知識や技術について伝えたり教えたりする活動
- ・食生活改善推進員としての活動
- ・さいたま食育ボランティア(県の登録制度)としての活動

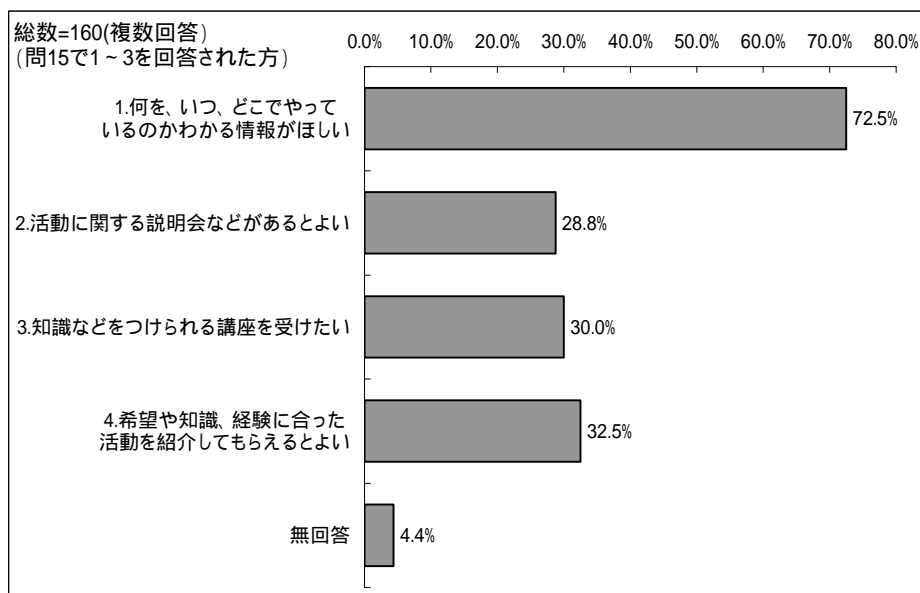
問 16 . 問 15 で 1～3 と答えた方におたずねします。今後、どのような食育に関するボランティア活動に参加してみたいと思いますか。(は3つまで)

食育に関して参加したいボランティア活動は、「生活習慣病予防などのための料理教室」(43.1%)が最も多く、次いで「食生活の改善に関する活動」(37.5%)となっています。



問 17 . 問 15 で 1～3 と答えた方におたずねします。食育に関するボランティア活動などに、どのようにすればより参加しやすくなると思いますか。(はいくつでも)

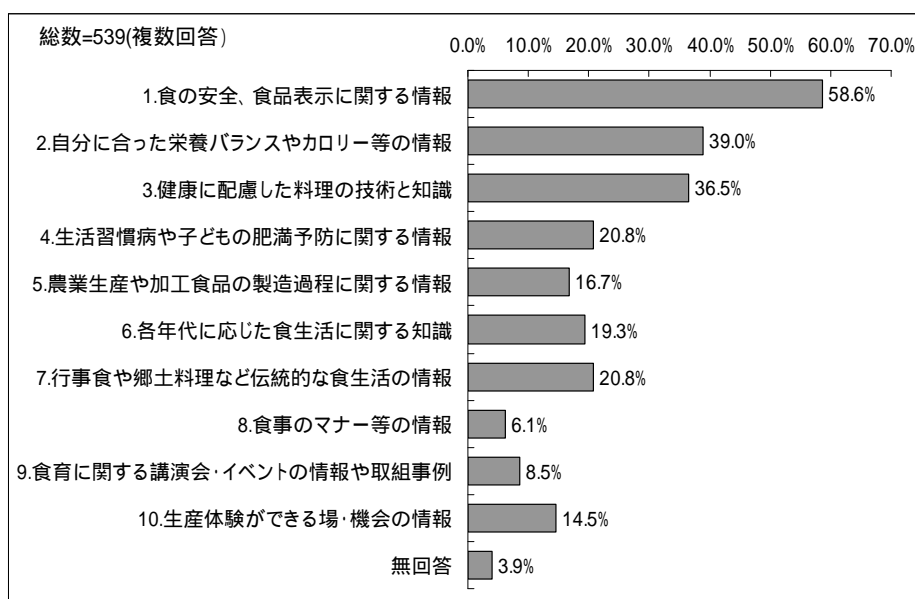
食育に関するボランティア活動に参加しやすくなるためには、「何を、いつ、どこでやっているのかわかる情報がほしい」(72.3%)という回答が最も多く、次いで「希望や知識、経験に合った活動を紹介してもらえるとよい」(32.5%)、「知識などをつけられる講座を受けたい」(30.0%)となっています。



6. 食に関して求める情報・各主体の取組に期待すること

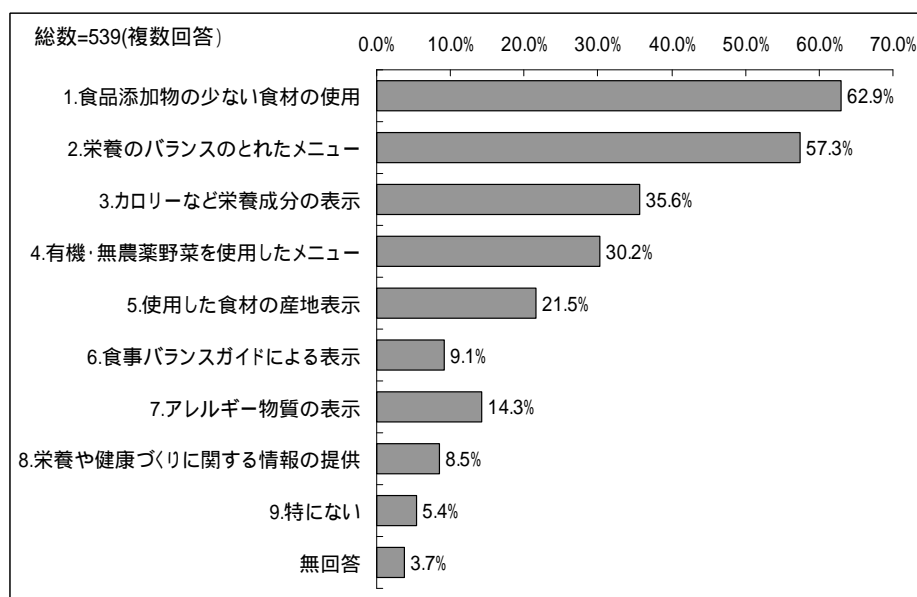
問 18 .健全で豊かな食生活を送るために、今後、どういう情報を知りたいですか。(は3つまで)

豊かな食生活のために知りたい情報としては、「食の安全、食品表示に関する情報」(58.6%)が最も多く、次いで「自分に合った栄養バランスやカロリー等の情報」(39.0%)、「健康に配慮した料理の技術と知識」(36.5%)となっています。



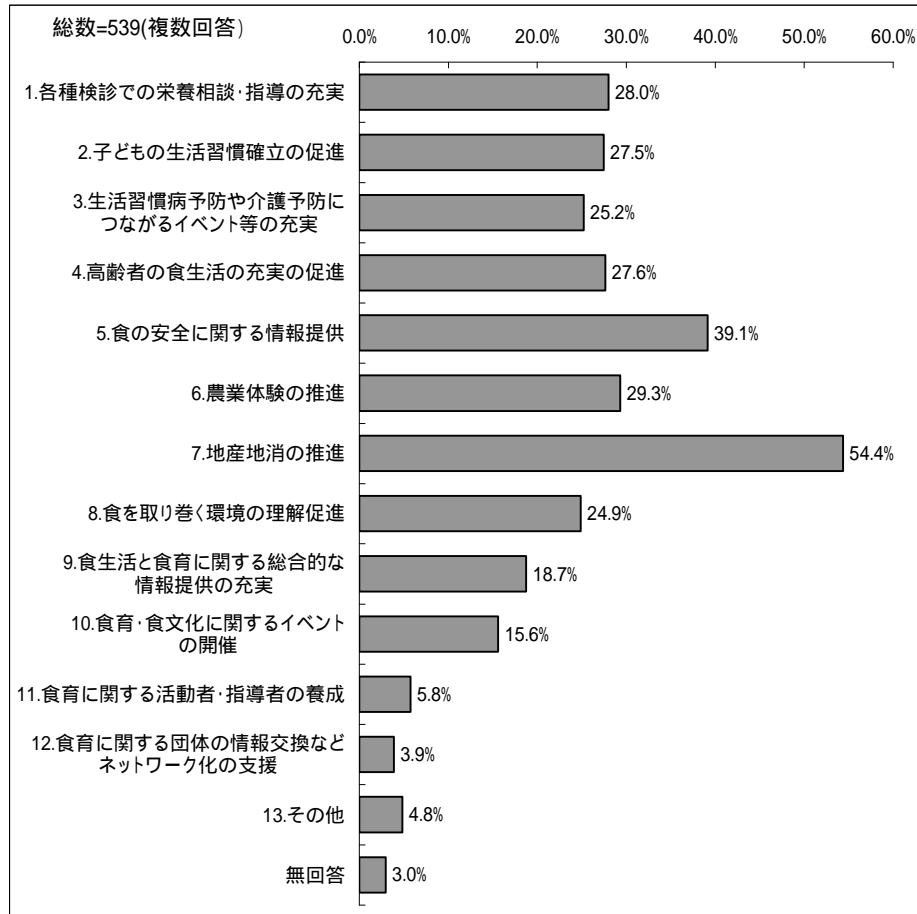
問 19 .飲食店やレストラン、職場の給食施設や食堂などに、食生活の改善や食育推進のため、どのようなことを望みますか。(は3つまで)

飲食店等に対して期待する取組としては、「食品添加物の少ない食材の使用」(62.9%)が最も多く、次いで「栄養のバランスのとれたメニュー」(57.3%)、「カロリーなど栄養成分の表示」(35.6%)となっています。



問 20 . 健全で豊かな食生活の実現に向けて、食育を推進するために、市にどのようなことに重点的に取り組んでほしいですか。（ は5つまで）

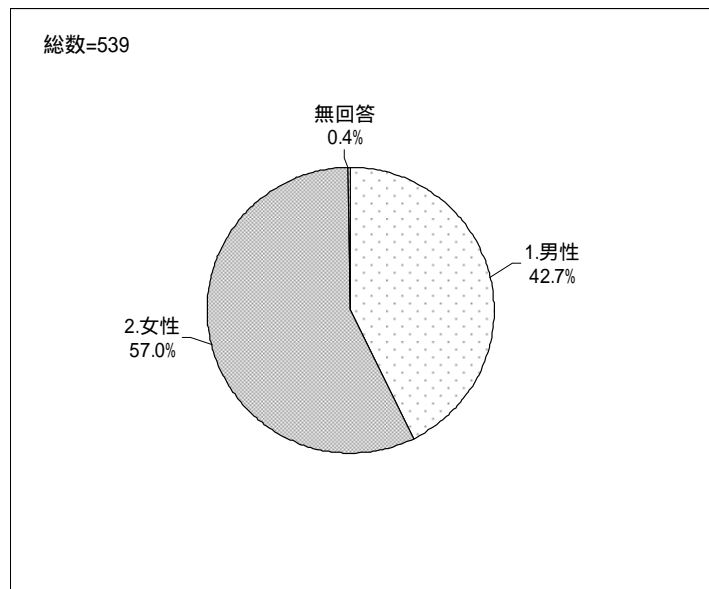
市に重点的に取り組んでほしいこととしては、「地産地消の推進」(54.4%)が最も多く、次いで「食の安全に関する情報提供」(39.1%)、「農業体験の推進」(29.3%)となっています。



7. 回答者の属性

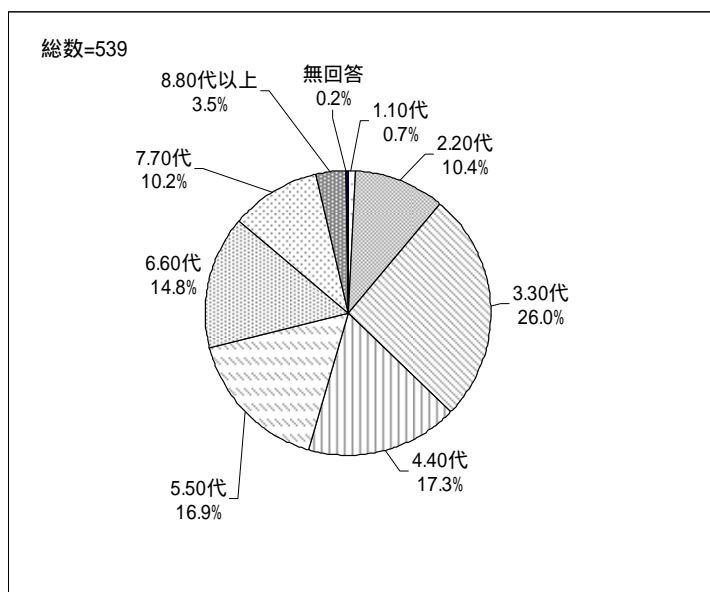
属性1 . あなたの性別をお答えください。

回答者の性別は、男性が42.7%、女性が57.0%となっています。



属性2 . あなたの年齢をお答えください。

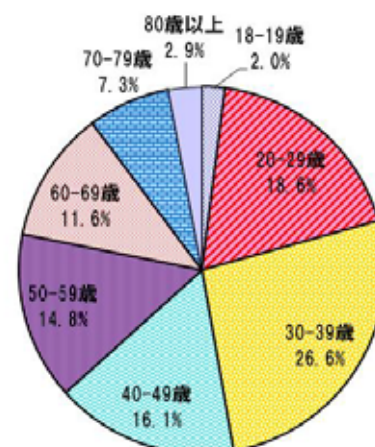
年齢は、30代(26.0%)が最も多く、次いで40代(17.3%)、50代(16.9%)、60代(14.8%)となっています。



参考:和光市年齢別人口割合

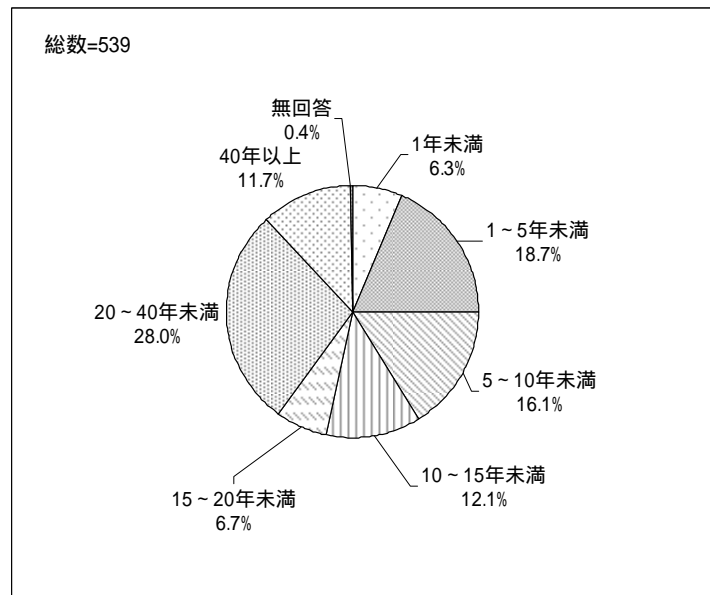
出典:和光市市役所(平成19年3月31日)

対象者数:60,554名



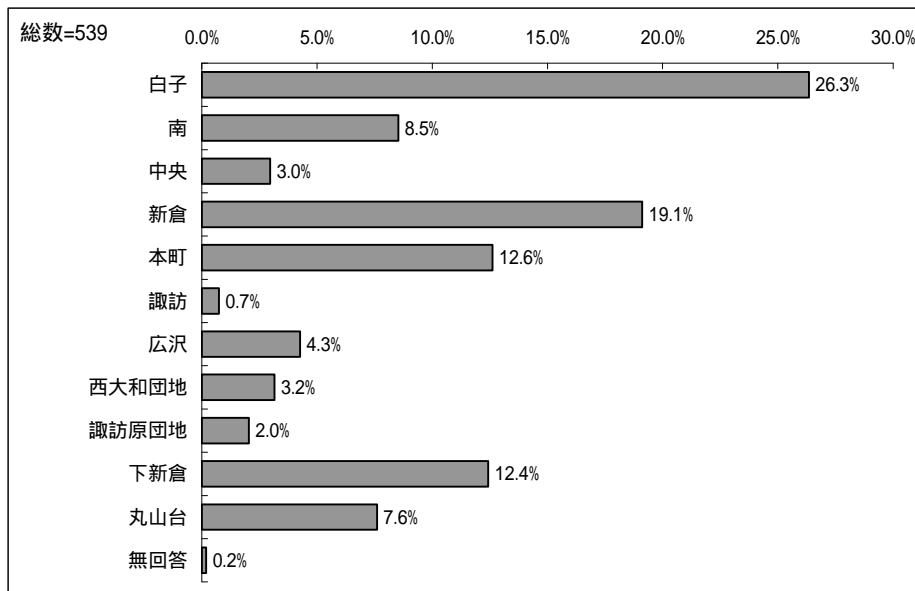
属性3 . 和光市内における在住年数をお答えください。

和光市における在住年数は、「20~40年未満」(28.0%)が最も多く、次いで「1~5年未満」(18.7%)、「5~10年未満」(16.1%)となっています。



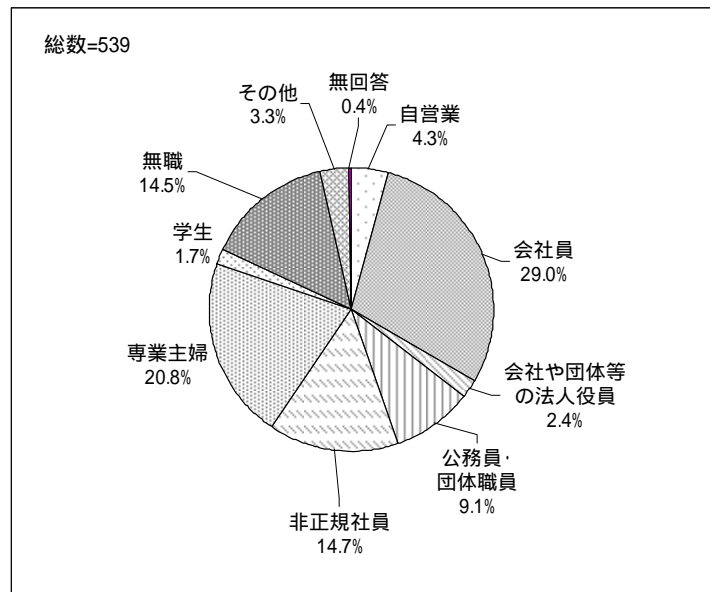
属性4 . お住まいの地区はどこですか。

住んでいる地区は、「白子」(26.3%)、「新倉」(19.1%)が特に多く、次いで「本町」(12.6%)、「下新倉」(12.4%)、となっています。



属性5 . ご職業は何ですか。

職業は、「会社員」(29.0%)が最も多く、次いで「専業主婦」(20.8%)、「非正規社員」(14.7%)となっています。



属性6 . ご家族の構成についてお答えください。

家族構成は、「親・子の二世世代家族」(46.9%)が最も多くほぼ半数を占め、次いで「夫婦のみ」(26.3%)、「単身」(15.6%)となっています。

